

スーパー耐久レース・FCY(フルコースイエロー)運用手順

- 競技長は決勝レース中において、安全上の理由(車両が危険な場所で停止したとき、マーシャルがコース付近で作業しているとき、また類似する状況が発生した場合)で“フルコースイエロー(以下、FCY)”を宣言することができる。
- “FCY”宣言はタイミングモニターおよびレースコントロール無線で行われFCYのカウントダウンが始まる。
 - ①FCY宣言が行われ、全ポストにおいてFCYライトパネルが点灯される。この時点から追い越しが禁止され、ドライバーは周囲の安全を確認し減速の準備を始める。同時に12番ポストにて「PIT CLOSED」ボードが提示されピットインが禁止される。
 - ②FCYライトパネルの点灯の約10秒後に全ポストにおいてFCYライトパネルが点滅される。この時点からコース上での走行速度は上限50km/hに規制され監視が開始される。
- FCY導入後は危険回避(事故現場付近の通過など)を除き、50km/hの一定速度で、且つ1列縦隊で走行しなければならない。不要な蛇行運転、加減速は禁止される。
- 50km/hの一定速度を超過、もしくは低速走行の場合は審査委員会に報告され、ペナルティが課される場合がある。
- ピットレーン出口は開放されたままとなる。ホームストレート上を走行中の車両は、ピットからコースインする車両が、ピットレーン出口の第2セーフティカーラインに到達するまでは追い越すことが認められる。
- 競技長は、安全上の問題が解消された時点で、車両の位置関係に関わりなくフルコースイエロー解除を宣言することができる。フルコースイエロー解除が宣言された場合、同情報はRC無線と計時モニターで伝えられ、解除宣言が行われた後に、全ポストでグリーンパネルが点滅される。この時点から、追い越し及び速度の規制が解除される。
- 「FCY」が導入されている間、ドライバーはドライブスルーおよびペナルティストップを消化することはできないがFCY導入中の周回はペナルティ消化のための周回にカウントされない。ただし「FCY」導入決定の瞬間に当該車両がピット入口ラインを通過している場合は、この限りではない。
- FCY導入中のピットインは禁止され、従わなかった場合には、60秒以上のペナルティストップが課せられる。
- FCY導入後も安全上の問題が解決しない場合は、スーパー耐久シリーズスポーツ規則(附則付則2)に従いセーフティカー(以下、SC)が導入される場合がある。この場合、この時点での先頭車両の前にSCが介入し、SC導入が宣言される。
 - ①この時点で、全ポストの「FCYライトパネル」は消灯され、代わりに「SCライトパネル」が点滅され、速度規制は解除される。
 - ②全車両は、安全な速度で付則に定められたSC隊列を形成する。

【FCY宣言の手順概略】

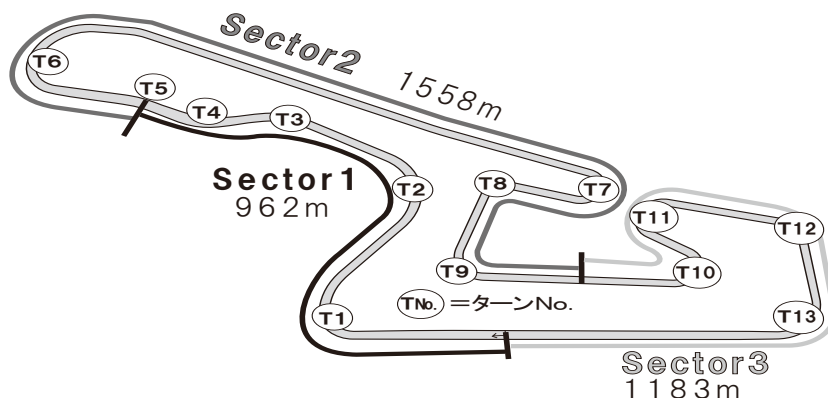
時間経過

レースコントロール	監視ポストの動き	競技車両の動き
① FCY 宣言	全ポスト・FCYライトパネル点灯 ※事故区間は黄旗提示 ※12番ポスト「PIT CLOSED」ボード提示	追い越し禁止 ピットイン禁止
② FCY 宣言 約10秒後	全ポスト・FCYライトパネル点灯 ※速度規制開始	50km/hに減速し、一定速度で走行すること
③ FCY 解除	全ポスト・グリーンパネル点滅	競技再開

10. FCY導入中の速度管理

FCY導入中のセクタータイム通過時間の目安は以下のとおりとします。(小数点以下、切り捨て)

■セクター1 : 69秒 ■セクター2 : 112秒 ■セクター3 : 85秒



OKAYAMA
International Circuit